

FDA：COVID ワクチンを打った子どもの 86%が有害反応

米食品医薬品局記録が明かす、ファイザー・ワクチン参加の子ども多数に有害反応

Infowars: by Mike Adams | Natural News

May 28, 2021

44 % 近くが、「活動に支障がある」と定義される「中程度の」副作用を経験した。

<https://www.infowars.com/posts/fda-document-reveals-86-of-children-who-participated-in-pfizer-covid-vaccine-trial-experienced-adverse-reactions/>

公的に利用可能な FDA の「ファクトシート」記録文書が、ファイザーの Covid ワクチン実験に参加した子どもの、86 パーセントが、「中程度」から「重い」有害反応を報告したと、明かした。

ワクチン実験の一環として、12 歳から 15 歳の子どもたちが、mRNA 配列の注射を受けている。これは彼らの細胞をコントロールするもので、彼らの血液に、我々のスパイク蛋白質を混ぜ合わせるものである。スパイク蛋白質は、血管の病気と血栓症を起こさせる。Jonas Salk 研究所でさえ、スパイク蛋白質を、血管病と血栓症の背後にある、犯人だと結論し、それはすべての Covid ワクチンの中に（意図的に、by design）混入されていると明言している。 <https://www.naturalnews.com/2021-05-07-salk-institute-reveals-the-covid-spike-protein-causing-deadly-blood-clots.html>

これはすべて、FDA によって公的に認められていることで、彼らは、これを子供たちの経験した、きわめて人を不安にする有害反応の報告として、ファイザーの Covid ワクチンの「ファクトシート」（ラベル番号 144413）に公表している。FDA 文書のオリジナルは、この PDF を見よ。 <https://www.fda.gov/media/144413/download>

万一、FDA がこのシートを消去したときのために、我々は Natural News サーバーに、それを確保しておいた（PDF）： <https://www.fda.gov/media/144413/download>

FDA は、mRNA ワクチンが、子供の 86%に有害反応を起こさせていると認めるが、これを「安全」だと言っている。

FDA の、このファイザーのページは、すべての「ファクトシート」と、新聞報道にリンクを設け、そこで FDA は、緊急時の実験的ワクチン使用許可を、12 から 15 歳の子どもにまで、拡大できたことを祝っている。

このファクトシートには次の表が記載され、そこには、mRNA 注射を与えられた子どもたちによって体験された、副作用とダメージの驚くべき高い率が詳しく出ている。

表 5：——研究 2： 思春期者の頻度とパーセンテージ： 問われた局所の反応、最大の痛みの激しさ、各回の投与後 7 日以内によるもの——12 から 15 歳までの思春期者

(この表は、冒頭に埋め込んだ英語原文によってご覧いただきたい)

表からわかるように、**1127** 人の子どもたちが、1 回目のワクチンを与えられ、**1097** 人が 2 回目を受けている。2 回目の注射に現れなかった 30 人の子どもたちには、何があったのだろうか？ 死んだのだろうか？ なぜ彼らは、2 回目の注射から除かれたのだろうか？

mRNA ワクチンの医学実験で注射を施された、これらの子どもたちの中で：——

- * ショッキングな 86% が副作用を経験している。
- * 44% 近くが、「活動に差し支える」と定義された「中くらいな」(moderate) 副作用に苦しんでいる。
- * 66% の子どもたちが発熱を経験している。
- * 65% が頭痛で苦しんだ。
- * これらの医学実験の一部として、子どもたちの経験した副作用には、その他に、嘔吐、下痢、発熱、筋肉痛、また関節痛さえあった。
- * 1 回目の注射に続き、86% の子どもたちが、このような副作用を経験した後でも、研究者たちは、2 回目の注射を継続して行った。

FDA は、これはすべて、子どもたちを「保護する」ためだと言いながら、一方では、ワクチンの売り上げを押し上げて、ファイザー社の利益のために、数十億ドルを産み出すためだと言った。

FDA は、その祝いの記者会談で、ファイザーの実験ワクチンを、12~15 歳の子どもに広げたことは、一種の突破的発見となるもので、子供に対する犯罪ではないと主張した。

「FDA が、ファイザーの BioNTech COVID-19 ワクチンの、緊急事態使用許可を拡大して、12 から 15 歳までの思春期者を含ませたことは、COVID-19 パンデミックに対する戦いの、意味深い一歩です」と、実務 FDA コミッショナー Janet Woodcock, M.D. は言った。「今日の我々の行動は、より若い人たちが COVID-19 から保護されるようにするとともに、我々を通常性の感覚に戻し、パンデミックの終息をもたらすものです。親や保護者たちは、この役所が、可能なすべてのデータを、厳しく徹底的に吟味することによって、安心できるようになりました。これはまた我々が、COVID-19 ワクチンの緊急使用の許可によって得たものです。」

言い換えると、FDA は、問題が子どもたちに、(訴訟の起こらない) **実験的な mRNA “ワクチン”** を注射することであるなら、86% もの副作用が生じて、それは承知の上であることを、自分で認めているのである。

ワクチンの医学実験は、ビッグ・ファーマの利益の名において、子どもたちに危害を加えている。

問題が、アメリカでの mRNA ワクチン実験であれば、たとえば、顔の麻痺のような深刻な反応が、ワクチン接種を受けた集団に現れたときでも、FDA (と、おそらく、その研究者たち) は、それを偶然の一致だとして退けるだろう。

FDA 自身の文書記録ではこう言っている：——

「ベルの麻痺」(顔面麻痺) が、ファイザーの BioNTech COVID ワクチン集団の、4 人の参加者によって報告された。顔面麻痺が襲ったのは、Dose 1 (参加者は Dose 2 を受けなかった) の後の 37 日目、それに Dose 2 の後の、3, 9, 48 日目であった。ベルの麻痺のどんな症例も、プラシーボ (偽薬) 集団には現れなかった。現在、利用できる情報は不十分で、ワクチンとの因果関係を定めることはできない。

このように、どんなに恐ろしい副作用が、ワクチン実験によって引き起こされても、それらは退けられ、無視されている。結局のところ、ワクチンを子どもに広く用いることを許可することから生ずる儲けは、数十億ドルになるだろう。(それは、新しい統計的なマーケットの全体について言える。)

この FDA 文書は、ワクチンは承認されたものでないこと、そして深刻な傷害や死さえ起こるかもしれないことを、認めさせている：——

[引用] FDA は、ファイザーの BioNTech COVID-19 ワクチンの、緊急事態使用を許可した。そして、これは FDA に承認されたワクチンではない。

臨床実験における有害反応

臨床実験で報告されている、ファイザーの BioNTech COVID-19 ワクチンから起こる、有害反応に含まれるものは、注射の場所の痛み、疲労感、頭痛、筋肉痛、寒気、関節痛、発熱、注射場所の腫れ、注射場所の赤らみ、吐き気、病気前の不快感、それに lymphadenopathy などである。(Full EUA 処方情報を見よ。)

許可獲得後に経験された有害反応

激しいアレルギー反応、過敏症 (anaphylaxis) や、他の超過敏症反応を含む (例、発疹、pruritus, urticaria, angioedema) 下痢、嘔吐、特に激しい痛み (腕) などの例が、臨床実験以外のファイザーBioNTech COVID-19 ワクチンの投与について、報告されている。これ以外の有害反応も、重いものを含めて、このファイザー・ワクチンの、より広範囲な使用とともに、明らかになってくるかもしれない。

FDA はまた、生命に危険のある過敏症のショックが、ワクチンの結果、起こるかもしれないと認めており、ワクチンを受ける人々は意識を失うかもしれないと言っている。

[引用] 急激なアレルギー反応に対処するための、適切な医学的治療が、直ちに用意されなければならない。急性の過敏症反応が、ファイザー・ワクチンの投与に続いて、起った場合に備えるものである。

Syncope (失神) が、特に思春期者において、注射可能なワクチンの投与に関連して、起るかもしれない。そのための手続きが、失神による障害を避けるために、用意されていなければならない。

理性をもつ誰であろうと、この FDA の「ファクトシート」を読んだ後では、ワクチン医療実験の人間モルモットとして、子どもたちが、継続的に募集されたり、利用されたりすることに、深刻な懸念を表明せざるを得ないだろう。

我々がこのような習慣には、続けて警鐘を鳴らさなければならない理由が、そこにある。

【訳者 Greatchain より】

これを、デマ情報とかフェイク・ニュースとか言いたがる人々は、しっかり念を入れて読んでいただきたい。これはアメリカの重要な役所の FDA 自身が言っていることである。彼らは明らかに、我々のような良心をもつ者ではない。子供に対して罪を犯すという意識は、ほとんどないらしいことがわかる。65歳までのコロナワクチン接種が終わったら、次には、青少年や子どもの接種が始まるのだろうか？ 関係者はどうか、その前にこれを読んでいただきたい。

2 ページ中程に、「2 回目のワクチン接種に現れなかった、30 人の子どもたちは、どうなったのだろうか？ 死んだのだろうか？」と言っている。これはただ、子どもたちが嫌になって、サボっただけの話かもしれない。それならそうと明記すべきである。何も言わなければ、我々は嫌な想像をせざるを得なくなる。しかもその余地は十分にある。この「ファクトシート」そのものが、最悪のことが起こる場合があると認めて、その対処を促しているからである。子供の他に、特に若い女性に深刻な事故が起こることが、多いように思われる。何によらず、少なくとも盲信はやめるべきである。